

町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会

第1回議事録

平成22年9月29日 18:00～20:00

町田市役所森野分庁舎2階第3会議室

配布資料

- 資料1 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会設置要綱
- 資料2 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会委員名簿
- 資料3 検討委員会のスケジュール
- 資料4 これまでの検討の経緯
- 資料5 町田市の博物館等各種文化施設等の現状と課題

1 委員の委嘱及び任命

事務局より、委嘱状を交付。

2 浜副市長挨拶（要旨）

町田市立博物館は、開設から36年が経過し老朽化が目立ってきており、来館者が毎日にぎわいを見せているという状況でもない。この博物館を、今後どうしていくのかということを検討したい。

また、町田市には博物館的な施設が他にも幾つかあるが、その連携、役割分担というものが明確に整理できていない。これらの財産を十分に活かすために、市役所として課題を整理する一方、市民にも意向調査のアンケートを行った。こうした材料を踏まえて、委員の先生方には、今後、市としてどのような博物館機能を持っていくべきか、市民にとっての貴重な資産でもある展示物・収蔵物をどう活用していくことが一番いいのか、白紙の状態から議論し、提案をしていただきたい。

3 委員紹介

事務局より資料2に基づいて委員の紹介。

4 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会設置経緯説明

事務局よりこれまでの経緯の説明。

5 委員長、職務代理選出

小瀬委員より、委員長として鈴木委員を推薦。

委員一同異議なしを以て、委員長として鈴木委員を選出。

鈴木委員長より、職務代理として濱田委員を指名。

(浜副市長、公務のため退席)

6 検討事項

事務局より別紙検討依頼書の内容説明。

7 議 事

(1) 検討委員会のスケジュールについて

事務局より資料3に基づき、スケジュールの説明。

委員一同異議なしを以てスケジュールの決定。

(2) 町田市の博物館等各種文化施設等の現状と課題

事務局より資料5に基づき、町田市の博物館等各種文化施設等の現状と課題の説明。

(3) 地域における博物館等の役割に関する意見交換（要旨）

鈴木良明委員長

行政の方針と市民の要望は車輪の両軸のような関係であり、博物館等の構想にあたっては、両者を踏まえなければならないと思う。市民アンケートでも、かなり傾向がとらえられるのではないか？

観光行政や都市づくりに加え、教育というものも博物館の在り方を考える大切なキーワードではないかと感じる。博物館、美術館の役割として、学校教育との連携を実践しているところも多くなった。博物館、美術館で本物にふれる体験は、教育の原点の一つではないかと思っている。

自由民権資料館は、その名前が生命線ではないか？こういう個性的な施設は非常に存在意義がある。総合的なものにならずに、特化したほうがいいのではないかという気がする。

山口有次委員

観光の立場からいえば、現状の町田市の文化施設は、立地的に分散し過ぎており、それぞれが小規模で活気立っていないという印象がある。ある程度中心があって、うまく連携する動きになっていかないと、集客という視点では期待できない。

集客のためには、観光の面から言うと、いい場所にあることはとても大事なことである。また、特定の施設だけではなく、商店街や地域そのものとの連携を図っていくことが望ましいのではないか。

大学と博物館の関わりでいえば、学生が博物館に行って学ぶ一方、大学生として教える側に回る

ということにも我々は取り組んでいる。こうした点で、大学側も博物館に期待するところがある。

小瀬康行委員

市民意識調査のアンケートに基づき、市民の要望についてこの場で議論し、できる限り実行していく。

博物館は大学教育の中でも大きな位置を占め始めており、いろいろな機会に学生を博物館に連れて行く。その際、はっきりとどういう博物館かということがわかることが、学生たちにとって安心材料となる。町田市の博物館も、何かありそうだと思うネーミングが大事ではないか。

前島正光委員

市民の3人に1人が博物館の存在を知らないということは問題がある。これを機会に文化ゾーンとしてのあるべき姿を描き、それぞれの施設がうまく連携できる方法を考えていくべきではないか。

文化施設としてある程度分類されたものがあると、商店街とは違った持ち味が出てきて、まちの文化性という部分がクローズアップされる。たとえば、広場を中心に美術館や博物館を設けるなど、行けば何となく楽しい雰囲気になれるというところがあれば、外部からのビジターも訪れる。

篠原やよい委員

私が勤めている薬師中学校の周辺には、この市立博物館や薬師池公園があり、フォトサロン、ふるさと農具館、自由民権資料館がある。そぞろ歩いて1時間くらいの範囲のところに文化施設等がたくさんあると、一つの観光資源といえる。施設相互の価値づけをして、一つエリアの中に文化ゾーンとしての高さを求めていくような取り組みもあってほしいかなと思う。

また、学校教育の中に博物館を位置付けるための、博物館側の受け手がほしい。学校教育と文化施設との連携は、地域の文化レベルの向上に直結すると思う。

渡辺一雄委員

玉川大学附属の教育博物館では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方と鑑賞教育カリキュラムの共同開発を行っている。たとえば、子供に白い手袋をはめさせて実物の「解体新書」をめくり、「これが江戸時代のおいだ」といった感動を感じてほしいのである。町田市の場合でも、本物の資料と来館者とのふれあいとは何なんだろうかという素朴なところから議論する積み上げがないと、コストや集客能力などの数理的処理で終わってしまう。

高知県で歴史民俗資料館をつくる際、自由民権運動と坂本龍馬の資料が注目された。それらは、

外部から見てわかりやすいという点でインパクトがあったのである。町田市自由民権資料館でも、いい意味で気負った観光的な視点を持ち、全国にアピールするつもりで中身を充実する必要があるだろう。

上原敬子委員

現在の博物館の展示内容では小学生には難しく、なかなか子供を連れて行きにくい。子供たちが参加し、体験でき、文化的な知識が学べる取り組みが年間のスケジュールの中で整理され、今後の見通しがわかれば、子供たちの利用の仕方も変わってくる。

濱田隆委員

町田市立博物館は非常に手狭であり、美術、歴史民俗、自然という三大分野があるなら、どれか1本で立っていくしかない。博物館機能の分散化と、そのための交通整理がこれからの課題の一つだ。

自然系の施設は、薬師公園など自然の豊富なところに集約されるといい。歴史民俗系、美術系もそれぞれふさわしい場をつくれれば理想的。そのためには、組織の整理も必要になってくるかも知れない。

事務局より補足説明

○学校教育との連携について（矢島）

数年前から博物館では、夏休みにお子様と家族で楽しめる「天文と時計」などのプログラムをずっとやっている。また、ひなた村の「縄文人になろう」というイベントがあるが、それに合わせて当館でも、町田市出土の土器、縄文土器とかそれに関連する展覧会を組むなどしている。学校とのパイプをどのようにつなげればいいのか模索しながら、体験教室等も組んで展開をしている。

○文化芸術の振興について（落合）

2006年に、「商業・文化芸術都市」という戦略目標を立てた。産業と文化芸術を共に活性化し、町田ブランドをつくっていくことが狙い。博物館等の在り方についても、産業と一体化した町田市を活性化するための施設づくり、市民が多く訪れる魅力のある施設づくりが基本にあると考える。

○自由民権資料館について（水嶋）

自由民権資料館では町田市域の歴史資料を扱っており、市民の方からは「郷土資料館などの名前の方がいいのではないか」というご意見をいただいている部分もある。しかし、成り立ちが町田市から出た民権家の土地を提供していただいたという部分もあり、自由民権資料館という名前になっている。その名前が館の運営のために半分災いしていることも否定できない。

○博物館の役割について（田邊）

教育は確かに大事だが、楽しめること、いやしの場になることが博物館、特に美術系の博物館には必要ではないか。一つのところでこれを両立させるのが難しい問題で、美術と歴史、考古、自然といったかたちで分散化ができれば、それぞれが将来発展させていける感じを持っている。

(4) その他

事務局より、市立博物館を含む諸施設の視察を提案。

日程を調整して改めて各委員に連絡。